

子どもを真ん中に みんなで取り組む地域づくり

～2021 年のチャレンジ～



NPO法人
豊島子どもWAKUWAKU ネットワーク

2022 年 1 月 3 1 日

目 次

はじめに～報告書の趣旨～	1
第1章 地域づくりのビジョン	2
第2章 地域づくりの取り組み	3
1. としまフードサポート	3
2. ライス！ナイス！プロジェクト	5
3. 地域がつながるプロジェクト	7
4. 豊島みんなの小円卓会議～長崎ブロック	9
5. 豊島みんなの大円卓会議	12
第3章 豊島に学ぶ地域づくりのヒント～解説編～	13
参考資料「地域がつながるプロジェクト」振り返り会より	14

はじめに～報告書の趣旨～

2020 年の年明けからはじまった新型コロナウイルス感染拡大により、私たちは「人と話すこと」に大きな制約を受けることになりました。人々の行動変容により、仕事が減り、生活が厳しくなる子育て家庭が増え、また、家庭内のストレスが増大していることも想像に難くありませんでした。子どもたちはどうしているのか？困っていたり、寂しい思いをしているなら放っておけない。この報告書は、そのような社会情勢のなかにあっても、子どもたちを共に見守り、育てる取り組みを休止することなく、身近な地域でのつながりをつくり続けた豊島区の地域のみなさんの 2021 年度の取り組みの記録です。

「地域づくりはみんなでやることが大事」とは、豊島子ども WAKUWAKU ネットワークの栗林知絵子さんがいつも地域の仲間たちに伝えておられるシンプルかつパワフルなメッセージです。子どもたちがのびのび育つ地域、温かなふるさとをみんなでつくる。その思いと実践が読者の皆様に伝われば幸いです。

この報告書は Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs により作成しました。執筆は豊島子ども WAKUWAKU ネットワークより委託を受けた小田川華子が担当しました。

小田川 華 子
東京都立大学非常勤講師、博士(社会福祉学)

第1章 地域づくりのビジョン

子どもを真ん中にみんなで取り組む地域づくり

豊島区での子どもを真ん中にした地域の取り組みは、コロナ禍という困難をエネルギーに変えて、ますます活発になってきています。これまでの様々な地域での取り組みを通して、子どもたちを見守る地域の“おせっかいな”大人たちが増えてきて、言葉を交わしたことがある大人が近所にいる子どもも増えてきています。こうしたつながりを素地に、窮地に立った時に子どもが大人に相談できる、子どもの異変に大人が気づき、放っておかない、という関係づくりが地域のいろんなところで生まれることが目指されています。それはまた、孤立状態で子育てするのではなく、地域の大人と一緒に子育てをするということでもあります。子どもを真ん中にした地域づくりのリーダーである栗林知絵子さんはいつも、そうしたビジョンを語っておられますが、そうすることによって、一緒に取り組む仲間たちの共通のビジョンになっていくのではないのでしょうか？

地域づくりはみんなでやるのが大事。その実践が、地域のたくさんの大人が気楽に参加でき、“おせっかいさん”に一步近づける「としまフードサポート」、「ライス！ナイス！プロジェクト」、そして、さらにもう一步太い結びつきができる「地域がつながるプロジェクト」です。いろんな仕掛けを通してみんなで取り組む地域づくりが進められています。

プラットフォームの形成を目指して

区内の子どもは約3万人。今よりもっとたくさんの子どもたちと近所の大人たちがつながり、一緒に子育てをする地域をつくるには、もっと多くのことが必要です。それには、地域の支援団体にとどまらず、教会やお寺、お店、企業、そしてもちろん行政など様々なステークホルダーがつながるプラットフォームを作り、一緒に考える機会を増やすことで可能性が広がっていくと栗林さんは考えています。様々なステークホルダーが一堂に会する大円卓会議にはそんな期待が込められています。

持続可能な地域づくり

そして、地域づくりの仕掛け人、栗林さんが目指しているのは、持続可能な地域づくりでもあります。地域のつながりが薄れがちな今、小地域での持続可能な地域づくりには「お金以上の可能性」があるはず。身近な生活圏域(小地域)でそこに住む人たちが担い手となり、自分たちが思い描く住みよい地域を実現していくことが、持続可能な地域づくりにつながるのではないかと。そんな思いで2021年度にはじまったのが小地域単位で開催する「小円卓会議」です。

このようなビジョンを実現するために2021年に行った取り組みを次章で紹介します。

第2章 地域づくりの取り組み

1. としまフードサポート

コロナ禍によって生活が苦しくなった家庭を支援しようと、区内の様々な支援団体や個人が協働しての食料支援が2020年から始まりました。としまフードサポートは寄付等で用意した米とレトルト食品やお菓子を中心とする食料セット等を区内の地域拠点で対象となる子育て世帯に配布する取り組みです。

2020年は区内10か所と夜間用1か所で配布しましたが、2021年には活動に賛同する民間の協力団体が増え、毎月13か所で実施し、合計18か所での取り組みとなりました。区民ひろばや福祉施設、その他、教会やお寺、企業など、地域の子育て世帯が足を運びやすい地域拠点が配布場所となりました。

食べ物を受け取った参加者は毎月およそ480世帯でした。参加者は自分の好きなところでの受け取りを希望することができ、自宅から近いところで申し込む人がいる一方、馴染みのあるスタッフがいたり希望する人もいました。参加者が最も多かったのは区役所で毎月70～80世帯、その他の地域拠点では1か所あたり少ないところで20世帯前後、多いところで60世帯前後でした。各拠点での準備から配布活動を担うスタッフ数は毎月合わせて100人を数えました。

月ごとの会場数と参加者数

月	会場数	参加者数
4月	13か所	494世帯
5月	13か所	481世帯
6月	13か所	462世帯
7月	13か所	483世帯
8月	13か所	592世帯
9月	13か所	571世帯
10月	13か所	526世帯
11月	13か所	527世帯
12月	ライスマイスタプロジェクト	
1月	13か所	589世帯
2月	ライスマイスタプロジェクト	
3月	郵送にて実施	889世帯

< としまフードサポート会場 >

区役所

区民ひろば	区民ひろば長崎	区民ひろば南大塚
	区民ひろば千早	区民ひろば駒込
	区民ひろば池袋本町	区民ひろば椎名町
	区民ひろば豊成	区民ひろば清和
	区民ひろば清和第一	区民ひろば高松
	高三会館	

福祉施設

豊島区東部障害支援センター
特別養護老人ホーム風かおる里
特別養護老人ホームほんちょうの郷

その他の地域拠点

巣鴨真性寺 目白聖公会
巣鴨ときわ教会
良品計画本社 区の清掃事務所
豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク事務局

民生児童委員や主任児童委員、区の職員、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーなど日常から福祉に携わる方の他、地域がつながるプロジェクトの家庭訪問員、子ども食堂などの地域活動をしている方、区民ひろばの職員、お寺や教会の方、企業や高校生、学生ボランティアなど、様々な方が気軽に参加し、出会いや対話を楽しめる取り組みになりました。

子ども連れの参加者が多かったこともあり、各地域拠点で工夫して、寄付で寄せられたおもちゃやお菓子を縁日のように並べて子どもたちが選べるようにした地域拠点もありました。関わる人の広がりとともに、寄付であつまる品物もバリエーションが増え、3月には雑貨や生理用品、6月には化粧品の提供があり、母親たちの喜ぶ顔もみられました。

食べ物を配ることを前面に出しながらも、来てくれた参加者との対話の場にしていこうという工夫も各拠点でなされるようになり、配布場所の奥にゆっくり話せるコーナーを設けた拠点もありました。日常から子ども支援に係わる方々はこの機会をとらえて、気になる家庭とコミュニケーションをとることができ、地域の支援活動や社会福祉協議会の貸付制度などについて紹介することができたという声もありました。一方で、建物の軒先しか使えないところでは、「皆さん黙々と品物をもらって帰ってしまいコミュニケーションが取れない」「子どもが来て遊べるところもなく、相談できる場所もないため、あるとよい」といった意見がありました。

2021年は取り組みに係わる人のすそ野が広がったというだけではありません。各拠点の運営でリーダーシップをとる人も増えました。毎回、各拠点の担当者が「1. うまくいったこと、嬉しかったこと」「2. 改善したいこと」「3. 学び・気づき」のレポートを共有するようにしたほか、当日の夜にスタッフがあつまって振り返りをし、想いを分かち合ったり、改善のための工夫について話し合う時間をもちました。

<スタッフの感想>

- 米を渡す時、100%の確率で「米はありがたい。助かります！」と言われる。米が命をつなぐ重要なアイテムだと重く受け止めたい。
- 生理用品を渡す時も「もらっていいんですか？」と喜んでもらえた。女性にとって生活必需品なのだと改めて配布できて良かったと実感した。
- 参加者のママが、子どもの大学合格を報告してくれて、皆で喜びを分かち合ったり、同じ年齢のママ同志が少し対話したり、コロナ禍でも対話が生まれてよかったです。
- 地域がつながるプロジェクトでお会いしている方もいらして、こうして少しずつ顔がつながっていくといいなと思いました。
- 小学生から支援していた男の子も大学2年となり徒歩なのでお母さんと一緒に来て、荷物運びにきましたと顔を見せに来てくれました。そして何より、今まで支援を受けていた高校3年生が大学に合格し、今度は支援されている側から、支援をする側になりたいとお手伝いに来てくれました。
- 今回、初めての地域の仲間に声をかけて、参加してもらった。フードサポートの実際がわかってよかった、という感想をもらった。体験するだけでも地域のいろんな方に参加してもらえたらいいと思った。
- 毎月来てくれる人も多いせいもあるが、だんだん、おどおどしたりすることなく、明るく挨拶を交わしながらやりとりできる雰囲気が出てきた。

2. ライス！ナイス！プロジェクト

前年度に引き続き、2021 年も区内のひとり親世帯や子ども支援団体につながっている親子などを対象に「美味しいお米(5kg)」と「お食事券(1500 円分)」を手渡しする「ライス！ナイス！プロジェクト」をとしま子ども若者応援プロジェクト事業で実施しました。第 1 弾はクリスマス前でもあり、子どもたちが喜びそうなお菓子やおもちゃ、雑貨などの選べるプレゼントも用意しました。会場によってはサンタが登場し、子どもたちを喜ばせました。

区役所と区内 21 か所の区民ひろば、それぞれの会場の準備、実施にあたり、たくさんの地域ボランティアの協力を得て、実現することができました。としまフードサポートの取り組みで広がった各拠点でのネットワークがここでも生かされていました。申し込みをした参加者親子にとっても、「いつもの」各地域拠点での受け取りとあって、顔なじみの人たちに会える機会にもなりました。

としま子ども若者応援プロジェクト事業は区民や区内事業者等からの寄付を主な財源とする豊島区の「としま子ども若者応援基金」が実施する事業で、豊島子ども WAKUWAKU ネットワークが区から委託を受けてコーディネート業務を担っています。当プロジェクトの地域のお店で使えるお食事券には企業や地元の経済界からの寄付が充てられ、地域のなかの経済循環にも一役買っています。

お米とお食事券、プレゼントを受け取った参加者からのメッセージを次ページに紹介します。

<2021 年度 第 1 弾>

- 12 月 12 日 区役所子育て支援課
- 18 日 11 か所の区民ひろば
- 19 日 10 か所の区民ひろば

<2021 年度 第 2 弾>

- 2 月 19 日 9 か所の区民ひろば
- 20 日 12 か所の区民ひろば
- 27 日 区役所子育て支援課

< お食事券への寄付協力 >

東京池袋西ロータリークラブ
東京豊島東ロータリークラブ
東京豊島ライオンズクラブ
ロイヤル商事株式会社
株式会社ロイヤルエンジニアリング



今回もお米などに加え、子どもたちが喜ぶおもちゃ等本当にありがたいです。お休みの日に私たちへのサポートをいただき大変感謝しております。

いつもありがとうございます。いくつかある中で選ぶことが楽しく、また子どもたちも今回は何が入っているのか福袋を開けるかの気持ちで楽しんでいます。本当に多くの方の善意で生かされています。感謝してもしきれません。

コロナ禍、企業の皆さんも大変な中このような企画を実施して下さりありがとうございます。ひとり親家庭(特に高校生・大学生)がいる家庭にとってとても助かる支援に心より感謝申し上げます。区民として今後ボランティアとしてお手伝いできることがあればぜひ参加させていただきたいと思っています。

子どもが高校生なので毎日のお弁当もあり、お米は大変助かっています。その他夏休みなどの長期のお休みの時にレトルト食品などもいただき、子供が自分で食べています。ありがとうございます。

いつもありがとうございます！1人でしんどい時も1人じゃないって思えてがんばれます！感謝です！

こんなにいろんなものを支援していただけたとは思っていなかったのですがサンタさんが来たのかと思うくらいうれしいです！！なかなか普段おもちゃも高いものは買ってあげられませんが、2人ともとても喜んでいて、今日もらったおもちゃでたくさん遊ぼうと思います！本当にありがとうございます！！

たくさん頂きましてどうもありがとうございました。子ども達には助けてもらった分は大きくなったら助けてあげられる人になろうね、と話しています。大切にに使わせていただきます。

こんなにさせていただいて大変嬉しく思います。本当にありがとうございます。近くで受けとりに行きたかったのですが、あまり近いと知りあいに会うのがつらいのでこちら(池袋)にしました。

母子家庭の私にとってこのようなプロジェクトはとってもありがたいです。コロナ禍の中、自身の仕事はほぼゼロになり、収入も…。だけど寂しい、悲しい気持ちはなく、子どもにおいしいご飯をたべさせることができるのはちょっとした幸せです。この幸せはこのプロジェクトのお陰です。

子どもは本日テストで来ることができませんでしたが、いつも「足長おじさん」と喜んでます。日常でおかしをあまり買わないのでとくによこんでいます。いつもありがとうございます。

高校生を持つ親として感謝の気持ちで一杯です。毎日、お弁当におにぎり5合たいでも足りずにお米は本当に助かります。本当にありがとうございます。息子と2人、絶対に前向きに生きていきます。みな様に恩返しができるようがんばります。

お米や食事券やプレゼントなど色々頂いてとてもうれしかったです。今月は扶養手当も入らない月でお金に困っていて毎日せつやくしていました。そんな中とてもありがたく感動しました。子どもと一緒に楽しみたいと思います。

3. 地域がつながるプロジェクト

訪問活動

地域がつながるプロジェクトは、地域のなかで特に孤立しがちな子育て家庭と研修を受けた地域の有償ボランティアが訪問活動を通してつながる取り組みです。豊島区支援対象等見守り強化事業を豊島子ども WAKUWAKU ネットワークが受託して実施するもので、2020 年度から取り組んでいます。2021 年度は昨年よりも対象家庭を絞り、7月から1月まで、月に1度、訪問員がお菓子や食べ物などのプレゼントをもって担当の家庭を訪問し、子どもの様子を確認しました。

訪問員研修

2021 年度は11月に講師を招き、子ども虐待防止のカギとなる地域での子ども・子育て支援をテーマとする講演を聞いた後、小グループで経験交流を行いました。

日 時:2021 年 11 月 1 日(月)14:00~15:30 参加者 17人
11 月 14 日(日)14:00~15:30 参加者20人
場 所:としま区民センター
第1部:講演「地域での子ども・子育て支援」
講師 胡内敦司氏(元松戸市子ども部審議監)
第2部:グループディスカッション(訪問活動の経験交流)

【 講演の要旨 】

2019 年度の全国の児童虐待相談対応件数は約 19 万件、そのうち児童相談所に一時保護されるのは約 3 万件、その後、施設入所等により保護されたのはわずか 5000 件余りでした。これは何らかのリスクを抱えたまま地域で生活が続いていることを意味しています。ですから、子育て支援等を行う民間団体が行政との連携のもと、訪問活動などを通して子どもを見守ることはとても有意義です。訪問の際、子どもは保護者とは別の人格、別の人権をもっており、保護者とは別のことを考えているかもしれない、という観点で子どもをよく見てあげることが大切です。

人口の高齢化、精神疾患をもつ人、通級による指導を受けている児童の増加、非正規雇用の賃金格差、核家族の増加などから、子育て環境は厳しさを増していることが分かります。皆さんが楽しむ気持ちをもって、ご近所さん親子を訪問していくことがそのご家庭のパワーになります。皆さんも他の人からパワーをもらって、息の長い活動をしていくことが大切です。そうすることが豊島区の魅力となり、子どもたちのより良い未来につながるはずです。

グループディスカッションで出た意見

- 担当している 2 世帯とも外国ルーツの家庭。片言でも一応日本が通じる。いろんな連絡先をカードに書いて渡した。貰い物があるとお裾分けしたりして、親しくなった。
- 言葉の問題などがあって、外国の方はアポを取るのが難しい。
- ミャンマー、ベトナムの家庭に行っているのも、ニュースを見てもひとごとでなく、ミャンマー情勢などを考えるようになった。
- 訪問している外国ルーツの家庭の小学校 1 年の子どもがドラえものの漫画が欲しいといっているけど、ママはドラえものの漫画の価値をわかっていないようなので、私がお金を払ってあげようと思っている（おせっかいしてる）。
- 折り紙で何かを作ってもっていったりする。遊べるようなものをもっていくと喜ばれる。
- お母さんに会えない家がある。仕事の帰りが遅くなったようで、外で 2 時間待ったこともある。子どもはピンポンされても出ないように言われているので、家にいても子どもだけだと出てきてくれない。
- 訪問先家庭の家族がコロナに感染したタイミングでお届けの連絡をとったことで買い物支援につながるがあった。WAKUWAKU で買い物代を支援してくれたのでとてもありがたかった。
- この事業がきっかけで近所の家庭と知りあえて良かった。
- 訪問先家庭の子どもの人数が多く、年齢がいろいろだと 1 回で会うのが難しい。
- 個人情報に関係もあるのだろうが、なぜ「地域がつながるプロジェクト」の対象になっているのかわからない場合がある。（⇒子ども家庭支援センターから各家庭の課題までは知らされていないので、訪問するだけでよいです。）
- 子どもがなついてくれて、ママが元気になっていく様子で、嬉しい。
- 去年は、5 回目の訪問で、安心してくれた。
- いつものおばちゃんと言われている。近い距離になった。
- 訪問していた子が、今、一時保護になってしまい、悲しい。でも、親御さんの話を聞いているのも、意味があると思う。
- お父さんがお母さんも連れて区民ひろばに来て、「実はお母さんが鬱で、子育てがしんどい」ということを話してくれたので、いろいろな支援につなぐことができた。お父さんが私を信頼してくれたから、お母さんを連れてきたんだと思うので、嬉しい。
- 昨年訪問時に 11 か月だったお子さんは、2 歳になり、成長と一緒に喜べて嬉しい。今では、会うと「抱っこ～」といってくるので、抱っこしている。コロナのご時世に、お父さんも抱っこを許してくれて、信頼してもらっていると実感している。

4. 豊島みんなの小円卓会議～長崎ブロック

<豊島みんなの円卓会議とは>

豊島区では、全ての人を取り残さない包括的で安心できるコミュニティ作りを、行政も、民間も、それぞれのやり方で取り組んでいます。もっとも、地域での活動はまだ各個人や組織がそれぞれ独自に取り組んでいる側面があり、有機的なネットワークを形成しきれていません。また行政と民間それぞれがお互いの活動を十分に認知し、活用し合うような関係も十分に形成されているとは言えません。

同じ志をもって活動をする行政・地域の人たちが、お互いの課題意識を共有し、より良い協力・連携関係を作り上げるため対話を目指す場が豊島みんなの円卓会議です。

2021 年度は小地域で地域のために活動している人たちが集う地域密着型の小円卓会議を長崎ブロックで始めました。当初の呼びかけ人となったのは、豊島区民生委員児童委員の寺田晃弘さん、豊島 WAKUWAKU 子どもネットワークの栗林知絵子さん、東京パブリック法律事務所の谷口太規弁護士です。持続可能な地域づくりを進めていくためには、日常生活で身近なエリア、小地域を単位に、そこに住む人や活動する人が主体となるプロセスを作っていく必要があるという考えのもと、企画されました。今後、より幅広い方に呼びかけ人になってもらい、取り組みを広げていく予定です。

長崎ブロックで 7 月から 12 月に2～3か月おきに開催した小円卓会議には、毎回約15人が参加しました。「長崎地区で様々な地域活動をされている皆様で、それぞれ直面している地域課題と、もう少し地域がこうなったら良いと思うことを共有し、地域で出来ることを、垣根を越えて話ししていく。」をテーマに、意見交換を重ねていきました。

開催日時	会場	内容
第1回 2021 年 7 月 29 日(木) 18:00～20:00	区民ひろば 富士見台	・地域の課題は？ ・地域でできることは？
第2回 2021 年 10 月 8 日(金) 18:00～20:00	区民ひろば 富士見台	・参加者から地域の活動近況報告 ・ゲスト:鈴木訪子さん(荒川区社会福祉協議会)
第3回 2021 年 12 月 3 日(金) 18:00～20:00	区民ひろば 富士見台	・豊島区(長崎)に児童相談所ができることについて情報共有と意見交換 ・長崎という地域で何ができるのか？

参加者(第1回)

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1. 民生委員長崎第一地区会長 | 2. 南三町会寿会会長 |
| 3. トキワ荘共同プロジェクト副会長 | 4. 長中会 |
| 5. 主任児童委員 | 6. 金剛院 |
| 7. 明和会商店街会長 | 8. 池袋消防団 |
| 9. 区民ひろば富士見台理事 | 10. 主任児童委員 |
| 11. 社会福祉協議会 CSW・富士見台 | 12. 社会福祉協議会 CSW・富士見台 |
| 13. パブリック法律事務所 | 14. 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク |
| 15. 書記 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク | |

地域の課題は？(一部を紹介します)

①子どもたちと公園の関係

- ・本来子どもは身体を思いっきり使うものだが、公園に「球技禁止」の札があったりする
- ・昼からお酒を飲んでいる大人が公園にいるが、そういう人も共生するのが公園でもある

②地域の防災

- ・地域の消防団員の高齢化、人手不足
- ・豊島区は河川がなく水害はないが、地震で起こる火災に対応できる水源が不足している
- ・学校のプールが大切な水源になるが、いざというときに対応できる地域の訓練が必要

③子どもたちと親の関係

- ・ネグレクト、虐待を受けている子どもたちが大人になって繰り返さないようにする必要がある
- ・今は三世代同居も少なく、親も孤立している。どうしたら良いか？と言える先を親が持っていない
- ・高校中退をしていくと、そのまま地域からいなくなってしまう傾向がある

④地域で孤立する人たち

- ・独居高齢者は、身体を壊すと途端に孤立してしまう
- ・悩みを聞いてもらいたい人がたくさんいる
- ・空き店舗、空き家が多く、場として活用したくても行政の規制が厳しく活用できない状況がある

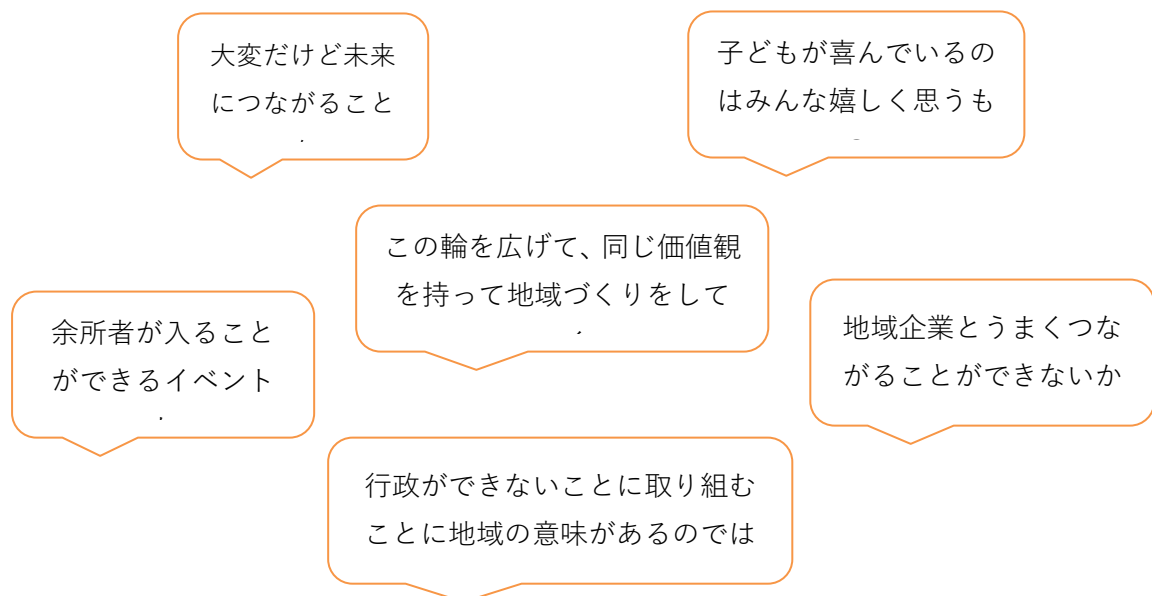
⑤地域住民と街の関係

- ・コロナ禍で色々な行事ができなくなっている。町会が神輿を担げない
- ・区民ひろばに若い人をつなぎ止める力がまったく無い。夜間閉めてしまい、受け入れを考えていない
- ・中高生がいない地域は活性化しない。卒業した中高生をどうつなぎ止めることができるか

地域でできることは？（一部を紹介します）

- ・オリンピックでも問題になっているフードロスの問題を地域の中で解消できるのではないかな
- ・食糧支援は防災につながるのではないかな
- ・地域で連携できれば、もっと公園の使い方が良くなるのでは
- ・地域、行政にも横串のつながりが必要
- ・地域サポーター講習、ボランティア登録制度など作ってみては
- ・地域行事を少し有料にしてもいいかもしれない
- ・区民ひろばのこれからの機能の見直し
- ・気軽な相談場所としての区民ひろば
- ・地域づくりは、心と活動の両輪
- ・子どもとのつながりを幼児期から作る
- ・子どもたちを待つことも大切。情報発信は子どもたちへのインプットにつながる
- ・場があることでつながりができる
- ・「つながり」がキーワード。つながることで色々な問題が解決できる

第3回の小円卓会議でも、日常の地域活動やこれまでの小円卓会議で共有してきた問題意識と共通の思いをもとに、長崎という地域でできることについて様々な意見がでました。



5. 豊島みんなの大円卓会議

昨年度に引き続き、2021 年度も大円卓会議を開催しました。8 月 2 日、緊急宣言下の池袋にて、1 週間前から連日、新規感染者数が 2000 人を超えるなか、感染対策を万全に整え、時間は短く、飲食を避けて開催しました。公的機関、民間団体、主任児童委員、地域や企業のボランティアなど約 50 人が集まりました。

この日のテーマは外国ルーツの人への支援。豊島区住民のうち外国ルーツの人は 10 人にひとり、若年人口のなかでは 3 人に 1 人が外国ルーツではないかと思われます。しかし、外国人には選挙権がないこともあり、生活の課題が可視化されない傾向にあります。支援ニーズがある子どもや家庭に支援が繋がっていない現状があります。

様々な立場の関係者が集う円卓会議で、外国ルーツの住民の状況や地域にある様々な支援活動を知ることによって、地域の関係者がうまくつながることができれば、区全体が当事者意識をもって、地域をつくっていけるのではないのでしょうか。地域関係者が私たちが協働して課題解決に取り組むことで、地域の活性化につなげていけるのではないのでしょうか。

日 時：2021 年 8 月 2 日(月)14:30～16:00

会 場：コアスタッフ株式会社大会議室

テーマ：外国ルーツの人への支援

コメンテーター：萩原氏

<プログラム>

1. 民間の活動紹介
2. 豊島区の支援事業の紹介
3. 事例検討グループワーク

民間の活動紹介

- WAKUWAKU クロスルーツ
- NPO 法人マザーツリージャパン
- 日本語支援活動としま
- ホームスタート・わくわく
- シャプラニール(ネパール人妊婦支援)
- 地域がつながるプロジェクト
- Living in Peace 基金
- 民生児童委員・主任児童委員
- メロス言語学院@東池袋
- シャンティ国際ボランティア会
- 社会福祉協議会(コミュニティ・ソーシャルワーカー)

豊島区の支援事業の紹介

- 豊島区多文化共生推進課

事例検討グループワーク

(6 人×8 グループ)

困難に向き合う外国ルーツの子どもがいる家庭の事例をもとに、支援の方法について検討しました。

グループ発表ののち、実際の対応方法が紹介され、専門機関と地域の連携について学びました。

第3章 豊島に学ぶ地域づくりのヒント

～解説編～

この章では、前章で紹介した豊島区における地域づくりの取り組みのカギとなる注目ポイントについて、筆者の視点で述べていきます。

(1) 多くの人が参加できる場をつくる

みんなで取り組む地域づくりはどう進めればよいかが豊島での地域活動のテーマになっています。それには、多くの人が参加できる取り組みをどうデザインするかがカギになります。

「としまフードサポート」や「ライス！ナイス！プロジェクト」の配布拠点でのボランティア活動は、地元で気軽に参加できる場でしたし、これまで定期的に行われているプレーパークや子ども食堂といった取り組みは、多くのメンバーが役割をもって息長く関われる参加の場です。また、「地域がつながるプロジェクト」の訪問活動は子どもや家庭とより深いかかわりができる場です。さらに、地域の構成員でもある企業の方々が参加できる場も多様に作ってきました。

地域みんなで子どもを育てるというコンセプトを掲げ、気軽な関り方からより深い関わり方まで様々な参加の形を地域活動の中にデザインしていくことが、参加のすそ野を広げる地域づくりにつながります。

(2) 地域づくりの核となる人を見つけ、つなげる

「としまフードサポート」や「ライス！ナイス！プロジェクト」は、区内のたくさんの拠点での一斉の取り組みだったので、各拠点での配布活動を運営するリーダーが必要でした。多くの人が気軽にボランティア参加できる場、食べ物をもらう人も手渡す人も心地よく、楽しい場をつくる拠点運営リーダーは、まさに、地域づくりの核となりえる方々です。日ごろの活動のなかでこうした拠点運営を担えそうな人を見つけ、一緒にプロジェクトを企画、準備し、実行するなかで、リーダーが増え、地域づくりの核となっていきます。

しかし、大枠が決まっている取り組みを自分の持ち場で粛々で行うだけでは、リーダーはリーダーになり切れません。今年度、イベント終了後に振り返りの時間をもち、リーダーたちが活動を通してどんな気づきをしたのか話し合い、より深く、主体的に活動に関わる機会を作ったことで、地域のリーダーの層が一段と厚くなったのではないのでしょうか。

また、主要なアクターが一堂に会する大円卓会議のような場は、リーダーになったばかりの人も、地域のキーパーソンたちと一緒に地域情報を共有し、共に知恵を絞るなかで、学びあう機会になっています。こうしたつながりが地域のキーパーソンのネットワークとなっていきます。

地域活動拠点での取り組みにおいても、小円卓会議のような取り組みにおいても、リーダーは、心がけて1対1の対話をし、「子どもを真ん中においた地域」にしていきたいという思いを同じくする仲間を見つけ、つながっていくことが大事です。

（３）対話による課題意識やビジョンの共有

「子どもを真ん中においた地域」にしたいと思っている人を見つけ出すには、1対1の対話や集まりで大勢の人に話す時など、機会あるごとに、リーダー自身が困難ななかにある子どもたちを放っておけないという思いや目指す地域の姿を語り、伝えるプロセスが欠かせません。そして、相手にも課題意識や思いを聞いてみます。

思いを言葉にする事はとても大事です。なんとなく感じていたことを言葉にする事で、自分の考えがはっきりしてくるからです。また、対話することで課題認識や目指すビジョンを共有することができ、共感が生まれ、仲間になれるからです。これは地域づくりのプロセスに不可欠な、「対話」を通した「意識化」といわれるものです。

拠点の運営リーダーを担った皆さん、小円卓会議に参加した皆さんは、このような対話を他のリーダーとした経験があるのではないのでしょうか。

（４）意識化から始まる地域づくり

今年度の豊島区での地域づくりの一番の注目点は長崎地区で始まった小円卓会議でしょう。日ごろから地域への思いをもって活動している15人のキーパーソンが集まり、それぞれがとらえている地域の課題、問題意識の共有から始まる地域づくりの試みです。小円卓会議でのグループディスカッションはまさに、意識化のプロセスであるといえます。

課題の共有、解決策の検討を通して、地域のキーパーソンたちが思い(価値観)でつながり、回を重ねるごとに、共に実現したい地域ビジョンの輪郭がはっきりしていくことでしょう。そして、自分たちが取り組むべき地域課題を選び、その解決方法を見出し、活動を企画し、実践に移していく、そのプロセスこそが「みんなで取り組む地域づくり」です。このようにして地域の人たちのなかから生み出されていく地域づくりの文化を育み、伝播させていくことが期待されます。

（５）更なる前進のために

これから豊島区で「子どもを真ん中にみんなで取り組む地域づくり」をさらに進めていくには、全体を見通し、統括するコアチームを強化し、各小地域や活動団体、グループの核となる人たちと1対1の対話をするリーダーを増やすとよいでしょう。統括するコアチームと言っても、これはトップダウン型の組織ではありません。各小地域の核になる人を見つけ、思いを共有し、活動を企画し、参加を呼び掛ける役割を担うコアチームです。こうした役割を担うリーダーの育成は、すそ野の広い継続的な取り組みをする地域づくりを進めるために不可欠です。

地域づくりはまた、地域の人たちが自分たちの地域のなかの人と人のつながりやしぐみに助け

られていると感じる時、あるいは、そういうものが今まさに必要だと実感する時に進んでいきます。見過ごせない深刻な問題が起こっていることに地域の人たちが気づいた時にも、地域づくりは大きく動いていきます。コロナ禍を背景に豊島区での地域づくりはすそ野が広がりました。小円卓会議での意識化のプロセスを経て仲間とともに多くの気づきを得た長崎地区のリーダーたちによって、長崎でも地域づくりが進んでいくことでしょう。「子どもを真ん中にみんなで取り組む地域づくり」の次なるチャレンジにも注目していきたいと思います。

※参考資料

「地域つながるプロジェクト」振り返り会より

日時:2022年3月16日 場所:としま区民センター

参加者:おせっかいさん 14 名 豊島区子育て支援課 4 名 WAKUWAKU 3 名

【良かったこと】

- ・ママと子供たちに出会えた。行くと喜んでもらえた。
- ・最終的に保育園入園が決まったと言われ安心した。
- ・訪問を楽しみに待っていてくれた。
- ・小1女の子楽しみに待っていてくれ、帰りに「ありがとう」と言葉を頂いた。
- ・入学支援金の申込みが出来た。(日本語が不自由な為)
- ・小さい子になついてくれた。いつもパジャマ姿の子が最終日に洋服で笑顔で迎えてくれた。
- ・学習支援に繋がられた。
- ・学校の公開授業で子供が嬉しそうに駆け寄ってくれた。
- ・フードパンドリーの申込みに繋がることができた(日本語がわからない方)
- ・2件は引き続きだったので、すっかりお友達モード。たぶん日本の「おばさん」、クリスマスプレゼントとか貰った。子どもの誕生日お祝いとかした。
- ・道や郵便局で会おうと挨拶できる。私の働いているスーパーに来て、要件を喋ったりする。
- ・入学式の後会って書類と一緒に作りました。
- ・私の目がアジアへ開かれたこと。
- ・問題が発生しないと、ごく近所にいても知り合えないという現場をより自覚できた。
- ・オンライン講座により支援の手立てがわかり、良かった。
- ・大きなサポートが必要な場合、子ども支援課の人と繋がれて良かった。
- ・2回目訪問からお子さんが楽しみに待っていてくれて、あげたお菓子の箱をすぐに開けて私にもくれる。
- ・お母さんの悩みが聞けたこと。
- ・子供がお菓子が来たと喜ぶ笑顔が良かった。
- ・絵本を読むことにより、家庭の様子がわかり、子どもと仲良くなれた。
- ・家に訪問する事でその家族の生活状況がある程度把握できること。
- ・外国籍の方に書類の書き方をサポートできた。
- ・外国籍の方を区民ひろばや図書館に連れていけた。
- ・外国籍の赤ちゃんや子供がかわいく仲良くなれた。「お食い初めにきて」と言われた。「引っ越ししても会いたい」と言われ一度行った。
- ・ミャンマーの方でパパ、ママとそろって待っててくれた。保育園の申込み、たくさん話ができた。
- ・今、自分の国で起きている問題について色々話をしてくれたこと。
- ・同じマンションのママ同士で迎えてくれたこと。2時間子供の話ができた。
- ・子ども食堂に繋げることができ、前回の子供、今回の子供、母と話ができた。
- ・コロナ感染の際に買い物支援などできた。
- ・フードサポートでも繋がっていると地域の他の方とも関係がより広がっていった。
- ・LINE やメールでやり取りできるようになった(SOS できる)
- ・顔がつながることで、街で会っても挨拶ができる関係が作れた。
- ・その後も定期的に元気～！？と連絡できる関係が作れたこと。
- ・地域つながるで豊島区の多くのおせっかいさんと繋がった。
- ・コロナで訪問先の家族が自粛になった時おせっかいができた。

- ・物を渡すという約束がなければ連絡を取らないと思う→家庭を定期的に見守りできた→その時相談を受けた→子育て孤立予防
- ・お母さんが少しずつ悩みを話してくれるようになった。
- ・好き嫌いが無いとの事でシチュー、赤飯のおすそ分けを喜んでくださった。
- ・地域の人の活躍の場
- ・声かけが恥ずかしくなくなった。
- ・自分の知らない所で生活している方の状況を知ることができて良かった。
- ・子供から親戚のおばちゃんのように扱われ、来ることを楽しみに待っていてくれる。
- ・保育園から小学校へ進学するまで相談され、小学生になっても見守ることが出来るかなーと思えた
- ・気軽に声かけや挨拶ができるようになった。
- ・半年訪問することで、幼児は成長を見守れた→私の喜びとなった。
- ・担当していた方の子供がとても良い子で仲良くなれた。
- ・訪問が終了しても、知り合いでいてくれると約束してもらえたこと。
- ・顔も知らない相手なのにとても気持ちよく(?)受け入れてくださった事。
- ・喜びを素直に表してくれるようになった。
- ・楽しみに待っていて、待っていてくれる。
- ・毎回訪問することが楽しみになっていた。
- ・小型犬を飼っている家だったので、初めての対面もワンちゃんが取り持ってくれ、スムーズに笑顔で進化した。
- ・中学2年生の娘さんも毎回近くで会話に入ってきてくれて、学校の様子も聞きやすかった。
- ・イベント終了時に町で会ったら手を挙げて「こんにちは」と言ってね！と約束したら、先日「こんにちは」とハイタッチ！5歳男児
- ・子供の趣味がわかり、共有することが出来た。メダカを飼育していた。
- ・ファミリーサポートをご紹介し、その面談をいう形で1時間弱、ママが(看護師さんで夜勤明け)仮眠している間楽しく遊べました。
- ・母子の1人ずつの家庭ほぼママも出てきて、私に報告してくれる。5年生男児
- ・最終日、おいしいお茶とおいしいスイートポテトを用意してくれて、楽しくおしゃべり
- ・ママと話す中で、ママの様子が聞けるようになった。(体調の事)
- ・子供とのコミュニケーションが取れるようになった。(今年4歳になるので、少し話が分かる)
- ・初めて訪問した際、帰り際に「また来てね」と言われ、何回も何回もバイバイをしてくれた。
- ・このような活動があることを知り、自分自身がさらに興味が(子ども食堂や一時預かり等)もて、世界が広がっていくような気がします。
- ・近くの方なので行きやすい。(気遣いをされるので)
- ・連絡がスムーズに出来るようになった。

【改善したい点・残念だった点】

- ・大きな課題がある人の事で悩むことがあり、辛い時があった。(子育て支援に繋がってもらえた)
- ・初日に会うのが大変だった。5回目にやっと会えた。その後はスムーズに。
- ・同じ状況の困っている仲間を助けてほしいと言われ、繋がったら北区だったので、今はスポットで案内している。
- ・せっかくファミリーサポートのご紹介ができ、2～3回お約束も出来ましたが、双方の都合やコロナの為、一度もお誘いが出来ませんでした。
- ・ママとは慣れてきたら仕事の事、食事や買い物の事など聞ける関係になったが、父(夫)の話題は出来なかった。(母子家庭)
- ・お母さんや娘さんと今後も繋がっていく必要があるのか、距離感などがわかりにくい。
- ・地域におせっかい仲間がいるととっても楽しい。

- ・どういう家庭に訪問しているのか不明。
 - ・ゲームが大好きで夢中になって、切り替えて会ってもらうのは難しいことがあった。
 - ・プレゼントを渡して帰ってくる事だけでいいのか？
 - ・男の子と母との関係の濃密の中に入っていく難しさを感じた。
 - ・保育園で延長と面談をして、このプロジェクトに申し込んだようだが、訪問を希望してなかった。
 - ・きっと他にもたくさん誰かに声をかけてもらいたい人がいるのかもしれない。
 - ・他にたくさん待っている人がいるのでは？
 - ・仕事をされているので、時間の制約が(約束の時)ある。
- 子どもが成長して(5年生男児)だんだん無口になってきた。
- ・ミャンマーの方(2人)子供の名前が覚えられなくて苦労した。
 - ・ミャンマーのかたなので、食べ物違って食べられませんと断られた。(おもち)
 - ・一軒家を探すのが難しかった。隣の家聞いたのにわからなかった。
 - ・玄関での出会いなのでその時の様子しか見えない。
 - ・約束をしてもいつもいないお子さんがいた。
 - ・最初の訪問でアパートの部屋番号がわからず困った。住所は正確に教えてほしい。
 - ・2件の方とも引っ越され連絡が取れなかった。
 - ・住所が途中で変わってしまい、どちらを信じていいかわからなくなった。
 - ・プロジェクトの中ではあまり知らなくていいと言われたことがあったので、混乱してしました。
 - ・ネパールの方、携帯が解約されて、連絡が出来なく、何回も訪問。引っ越しされたようです。
 - ・生まれたばかりの子どもとパパ、ママと3人で6畳に「引きこもって」いるようで、どうしてあげたらいいか悩んだ。
 - ・子どもの権利ってなんなのと思いました。
 - ・ひどい親子喧嘩に出会った。

【今後の・・・】

- ・続けてやれたら(いろんな支援が網の目のように地域につないでいける一助になれば)
- ・やらしてほしいです
- ・来年できたらやりたいです。コロナが明けたら日本語サークル、学習支援などサポートする手立てが必要。つなげたいです。
- ・来年もやりたいです。ご近所付き合いがほとんどない現代の中で私自身も近くの方と繋がれたことに、心強さを感じています。
- ・おせっかいさんの孤立、仲間がほしい。
- ・行政と地域が連携して孤独や虐待を予防するのに有効な活動だと思うので、来年も実施するのは良かった。
- ・もっと事務局とおせっかいさんとのコミュニケーションをとったほうがより子供に良い効果がある。
- ・おせっかいさん同士の交流会があったほうが良い。
- ・おせっかいさんがもっと増えるとよい「地域で子育て」を確かなもの(豊島区の常識)にできるともう一人子供を産みたいと思う人も増えると思う。
- ・地域単位での活動ができるとよいかも
- ・地域カラーを大事にして、地域にあった人々が地域の成長を考えながら活動する。
- ・豊島区家賃が高い問題、待保育問題などを同時に考えないと。
- ・地域で参加しているおせっかいさんがわかると交流(相談)できてよいと思う。
- ・地域の人達が協力していけるような工夫があればいい。
- ・長く続けていき、多くの家庭と繋がっていきたい。
- ・継続的、かわれることが大事かと思われる。
- ・ぜひ、やるべきだと思う。おせっかいさんが増えると1人の負担も減るかも。

- ・他の人が喜んでくれるとこちらも輝けるので続けていけたらいいと思う。
- ・母子家庭だけど、最近(中古だけど)ベンツを買ったママ。収入だけじゃないけど、どうかな。。。と思った。ただ働いてるママもコミュニティーが欲しいかも。
- ・できれば続けられたらと願っています。配布するお菓子は小さい子も食せるものが良いと思いました。
- ・近所のおせっかいさんがいなくなっている現代、プロジェクトとして続ける意味はあると思う。そして今後、回りに私たちが知らせ、巻き込んでいく。
- ・来年も参加したいとは思っています。ただ基本的に「必要な人」に届いているのか？という疑問はあります。
- ・地域の外国の人たちが使いやすい「ひろば」とか公共施設が増えるとよい。言語とか文化とかそういうやりとりができる地域とするにはどうすればよいか？
- ・なかなかたいへんなおせっかいさんの悩みを受け止めるシステムが必要かな。見えない困っている人たちを見えないなりに手助けするのは難しい。
- ・私はもう少し毎日顔が見られる様なところに住んでいる人の所に訪問される方が嫌かもしれませんね。いらしたらぜひ。
- ・プレゼントはこまごましたものより、ちょっといいもの、クリスマスの時のチョコとかの方が喜ばれた。
- ・個人情報については、おせっかいさんは「知らない」ほうが良いと思いますが、おせっかいする上でどの程度かわるかバランスが難しい。
- ・希望を自らしていないご家庭にどんな説明をして私たちが訪問することになったか知りたい。
- ・今後も続けるのなら、私も続けたいと思います。